

「かごしま文化財事典プラス」を活用しよう ～ かごしま・身近な地域の再発見! ～

I 「かごしま文化財事典プラス」のよさ

(1) 1人1台端末時代における新たな学びが期待できます。

- ・ 教科等の学習において、鹿児島県の文化財を調べたり、確認したりする活動を通して、地域の歴史や文化に対する興味・関心を高めることができます。
- ・ 学習を通して、生徒が「問い」をもち、詳しく調べるなど、学びの連続・発展が期待できます。

(2) 生徒の情報活用能力が高まります。

- ・ 生徒にとって「調べやすいコンテンツ」であり、自分の目的に応じて課題解決を図りながら学習を進めることができます。
- ・ 複数の文化財を結び付けて考えることで、社会的事象の見方・考え方を働かせたり、新たな知識を自分の力で見いだしたりすることができます。

(3) 県内の文化財を調べまとめることで郷土教育の充実が図られます。

- ・ 県内や地域に残る文化財から、地域の歴史を知ることができます。
- ・ 文化財の由来や地域住民の関わりから、地域が分かり、郷土を愛する心を養うことができます。

- ① 「内容の理解」と「サイトの見やすさ」を意識した親しみやすいサイト
- ② 操作しやすく、必要な情報を調べやすいサイト
- ③ 使いやすい「文化財特集」～時代と関連付けて理解を深めるサイト

鹿児島県の文化財を、「楽しく」
調べる・知る・学べる
文化財(地域)が分かる

- ・ 郷土、地域を愛する心
- ・ 自ら学ぶ力

2 学校(授業)での活用例

社会科

(中学校社会科の学習内容については【参考資料1】参照)

[地理的分野]

- 地域調査の手法～身近な地域の調査(文化財の分布)
- 日本の諸地域「九州地方」～世界に誇る鹿児島県の自然と文化
- 日本の諸地域「近畿地方」～歴史的な景観を生かしたまちづくり【参考資料2】

[歴史的分野]

- 身近な地域の歴史～身近な文化財から見える我が町の歴史
- 日本列島の誕生と大陸との交流～縄文・弥生時代に鹿児島で暮らした人々
- 産業の発達と幕府政治の動き～薩摩藩の集成館事業【参考資料3】

理科

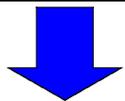
- 自然環境の調査と保全
～自然環境を保全するために、どのような活動が行われているだろうか。
(希少な固有種が生息する奄美大島・徳之島の取組)

総合的な学習の時間

- 地域に昔から伝わる史跡や伝統芸能について調べよう。
- 歴史や文化を生かしたこれからのまちづくりについて考えよう。

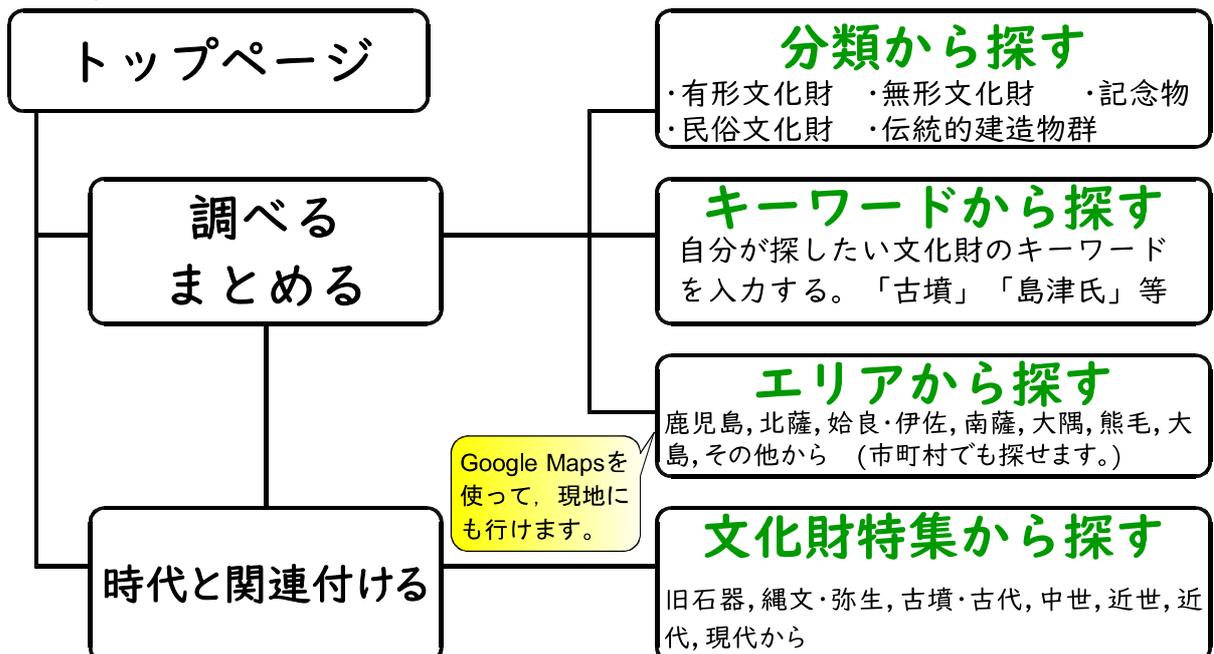
自主学习(自宅学習を含む)

- 現在の鹿児島県域には、どんな中世の山城があったのだろうか。
- 夏季休業中に、鹿児島の世界遺産について調べてまとめよう。



使ってみよう!

「かごしま文化財事典プラス」の効果的な活用方法



【参考資料Ⅰ】中学校社会科における学習内容

〔地理的分野〕

- | | |
|-------------------|-------------------|
| A 世界と日本の地域構成 | C 日本の様々な地域 |
| (1) 地域構成 | (1) 地域調査の手法 |
| B 世界の様々な地域 | (2) 日本の地域的特色と地域区分 |
| (1) 世界各地の人々の生活と環境 | (3) 日本の諸地域 |
| (2) 世界の諸地域 | (4) 地域の在り方 |

〔歴史的分野〕

- | | |
|---------------|--------------|
| A 歴史との対話 | C 近現代の日本と世界 |
| (1) 私たちと歴史 | (1) 近代の日本と世界 |
| (2) 身近な地域の歴史 | (2) 現代の日本と世界 |
| B 近世までの日本とアジア | |
| (1) 古代までの日本 | |
| (2) 中世の日本 | |
| (3) 近世の日本 | |

内容の取扱い

(1) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

カ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産について、生徒の興味・関心を育てる指導に努めるとともに、それらの時代的背景や地域性などに関連付けて考察させるようにすること。その際、身近な地域の歴史上の人物と文化遺産を取り上げることにも留意すること。

〔公民的分野〕

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| A 私たちと現代社会 | C 私たちと政治 |
| (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色 | (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 |
| (2) 現代社会を捉える枠組み | (2) 民主政治と政治参加 |
| B 私たちと経済 | D 私たちと国際社会の諸課題 |
| (1) 市場の働きと経済 | (1) 世界平和と国際社会の諸課題 |
| (2) 国民の生活と政府の役割 | (2) よりよい社会を目指して |

【参考資料2】かごしま文化財事典プラス 活用事例（中学校社会科地理的分野）

本資料では、「歴史的な景観を生かしたまちづくり」について、「かごしま文化財事典プラス」を活用した授業例を取り上げる。

1 単元 近畿地方（学習指導要領大項目C，中項目(3)に関連）

2 単元の指導計画（全6時間）

| 時 | 主題（例） | 学習課題（例） |
|---|--------------------------------|--|
| 1 | ○ 近畿地方をながめよう ○ 単元を貫く学習課題の設定 | 近畿地方を大きくながめると、どのような特色が見られるだろうか。 近畿地方では、なぜ都市や農村の姿が変化してきたのだろうか。 |
| 2 | ○ 都市圏の拡大と都市の産業 | 近畿地方では、都市はどのように形成され、どのような課題があるでしょうか。 |
| 3 | ○ 都市開発と景観保全～京都市を例として | 近畿地方の都市にはどのような課題があり、その解決に向けて、どのような取組が行われているのだろうか。 |
| 4 | ○ 変化する農村の暮らし | 近畿地方の農山村にはどのような課題があり、その解決に向けて、どのような取組が行われているのだろうか。 |
| 5 | ○ 歴史的な景観を生かしたまちづくり（本時） | 〔発展学習〕 鹿児島県では、歴史的景観を生かしたまちづくりがどのように行われているだろうか。 |
| 6 | ○ 単元のまとめ | 近畿地方の特色をまとめよう。 |

3 本時の目標

鹿児島県の重要伝統的建造物群保存地区を生かしたまちづくりについて、近畿地方の事例（奈良市，伊勢市）と比較しながら調べることを通して、歴史的な景観保全の在り方について関心を高める。

4 主な学習内容

本時は、「都市開発と景観保全～京都市を例として」（第3時）を踏まえた発展学習として構想した。

「かごしま文化財事典プラス」では、以下の重要伝統的建造物群保存地区（国選定）が紹介されている。

- ・ 南九州市知覧
- ・ 出水麓
- ・ 入来麓
- ・ 加世田麓

この中から南九州市知覧を例として、鹿児島県における歴史的景観を生かしたまちづくりを取り扱う。景観の特色やまちづくりの取組について、近畿地方の事例（奈良市，伊勢市）と比較しながら学習する。

5 授業例

| 課題追究のための学習活動 | |
|--------------|---|
| 課題設定 | <p>学習課題の設定 ※「かごしま文化財事典プラス」の活用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>南九州市知覧町では、歴史的景観を生かしたまちづくりがどのように行われているだろうか。</p> </div> <p>※ 文化財について>伝統的建造物群の写真提示</p> |
| | <p>「知識」の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南九州市にある知覧伝統的建造物群保存地区は、薩摩藩の旧武家屋敷群である。 ○ 屋敷は石垣に囲まれ、その上にはイヌマキや茶の木で生垣がつくられ、そのうちの7か所は「知覧麓庭園」として国の名勝になっている。 ○ 自治体は、文化財の保存修理や修景事業、地区住民が行う保存修理等への補助などを通じて、歴史的景観を維持してきた。 ○ 奈良町（奈良市）では、地域の若者が主体になったまちづくりが行われた。 ○ おはらい町（伊勢市）では、文化財保護法に基づく建造物の保存ではなく、市の条例によって、住民の現代的な生活を損なうことなく、古くからの風情が感じられる町並みを、新たに創り出す取組が進められた。 |
| 課題追究 | <p>資料の活用 ※「かごしま文化財事典プラス」の活用</p> <p>※ 文化財について>伝統的建造物群で「南九州市知覧」を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出水麓，入来麓，加世田麓の資料と比較し，知覧の景観の特色をまとめる。 ・ 必要に応じて，「かごしま文化財事典（小学生サイト）」を参照する。 <p>○ 端末を活用し，南九州市における歴史的景観を生かしたまちづくりの取組について調べる。また，近畿地方の事例（奈良市，伊勢市）についても調べ，まちづくりの進め方の共通点や相違点等を整理する。</p> |
| | <p>「知識・技能」を活用した「思考・判断」</p> <p>○ 南九州市，奈良市，伊勢市における歴史的な景観は，行政や市民による景観を維持したり，改善したりする活動によって支えられているとともに，その取組の成果が新たな背景となって，各地域の更なる魅力につながっている。</p> |
| 課題解決 | <p>予想される生徒の「表現」例</p> <p>○ 南九州市知覧では，行政や市民が，文化財の保存修理や修景の事業を行ったり，まちづくりの在り方について話し合いを行ったりしている。そのようにして守られ，創られてきた歴史的景観の観光等への活用を通して，地域の活性化につないでいる。</p> |
| | <p>○ 本時を振り返り，新たな問いを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （例）知覧のほかに，鹿児島県内ではどのようなまちづくりが行われているだろうか。 ・ （例）自分の住んでいる市町村を代表する景観は何だろう。その景観には，歴史や文化，自然など，どのような背景があるだろうか。また，その景観を守るために自分にできることは何だろうか。 |
| 新たな問い | <p>○ 本時を振り返り，新たな問いを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （例）知覧のほかに，鹿児島県内ではどのようなまちづくりが行われているだろうか。 ・ （例）自分の住んでいる市町村を代表する景観は何だろう。その景観には，歴史や文化，自然など，どのような背景があるだろうか。また，その景観を守るために自分にできることは何だろうか。 |

【参考資料3】かごしま文化財事典プラス 活用事例（中学校社会科歴史的分野）

本資料では、「薩摩藩の集成館事業」について、「かごしま文化財事典プラス」を活用した授業例を取り上げる。

1 単元 産業の発達と幕府政治の動き（学習指導要領大項目B，中項目(3)に関連）

2 単元の指導計画（全8時間）

| 時 | 主題（例） | 学習課題（例） |
|---|-------------------------------|--|
| 1 | ○ 単元を貫く学習 課題の設定 ○ 産業の発展 | 産業や文化が発達し，都市が繁栄する中で，幕府はなぜ改革をせまられることになったのだろうか。 江戸時代には，どのような産業が発達したのだろうか。 |
| 2 | ○ 都市の発展と交通の整備 | 江戸時代には，どのような交通や都市が発達したのだろうか。 |
| 3 | ○ 幕府政治の安定 | 徳川綱吉の時代の政治や文化にはどのような特色があったのだろうか。 |
| 4 | ○ 享保の改革 | 徳川吉宗の政治には，どのような特色があったのだろうか。 |
| 5 | ○ 田沼政治と寛政の改革 | 田沼意次と松平定信の政治には，どのような特色があったのだろうか。 |
| 6 | ○ 新しい学問と文化の発展 | 社会の変化の中で発展した学問や文化には，どのような特色があったのだろうか。 |
| 7 | ○ 外国船の出現と天保の改革 | 水野忠邦の政治や諸藩の改革には，どのような特色があったのだろうか。 |
| 8 | ○ 薩摩藩の集成館事業（本時） ○ 単元のまとめ | 〔発展学習〕 薩摩藩が産業の近代化を進めたのはなぜだろうか。また，どのような取組が行われたのだろうか。 |

3 本時の目標

社会の変動や欧米諸国の接近などにより，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせる中，薩摩藩で進められた産業の近代化について理解する。

4 主な学習内容

- ・ 19世紀，欧米列強は次々とアジアに進出した。日本の西南端に位置し，外国船と最初に接する薩摩藩は，危機感を抱いていた。
- ・ 1842年，アヘン戦争で清がイギリスに敗れると，幕府や諸藩において欧米列強に対する危機感が強まった。
- ・ 1851年，薩摩藩主となった島津斉彬は，大砲の鑄造や造船など，諸産業の近代化を進めた。

| 国内の主なできごと | 鹿児島での主なできごと |
|-------------|-------------------------------------|
| 1837 大塩の乱 | |
| 1841～ 天保の改革 | 1851 集成館事業開始 1852 関吉の疎水溝 給水開始 |
| 1853 ペリー来航 | 1857 反射炉完成 1858 寺山炭窯完成 |

5 授業例

| 課題追究のための学習活動 | |
|--------------|---|
| 課題設定 | <p>学習課題の設定 ※「かごしま文化財事典プラス」の活用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>薩摩藩が産業の近代化を進めたのはなぜだろうか。また、どのような取組が行われたのだろうか。</p> </div> <p>※ 文化財特集>近代「明治日本の産業革命遺産」>旧集成館 附寺山炭窯跡 関吉の疎水溝の写真提示</p> |
| | <p>「知識」の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1851年に薩摩藩主となった島津斉彬は集成館事業を始め、産業の近代化を進めた。 ○ その背景 <ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀、イギリスやアメリカなどの外国船が日本に来航した。幕府は、1825年に異国船打払令を出した。 ・ 薩摩藩内では1824年に宝島事件、1837年にモリソン号事件が起こった。 ・ 天保のききに苦しむ人々の救済を目的に大塩平八郎が反乱を起こした。 ・ 国内外の危機に対応するため、水野忠邦が天保の改革を始めた。 ・ アヘン戦争で清が敗れたことを受けて、幕府は異国船打払令をやめた。 ・ 水野忠邦は改革途中で老中を辞めさせられ、幕府の権力の衰えが顕著になった。 |
| 課題追究 | <p>資料の活用 ※「かごしま文化財事典プラス」の活用</p> <p>※ 文化財特集>近代「明治日本の産業革命遺産」>旧集成館 附寺山炭窯跡 関吉の疎水溝を基に、集成館事業の概要を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集成館に燃料（白炭）を供給する寺山炭窯、動力源となる関吉の疎水溝の関係を整理する。 ・ 必要に応じて、「かごしま文化財事典（小学生サイト）」を参照する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 主な外国船の出現した場所（地図）、外国船の来航件数の推移（グラフ）を読み取り、欧米列強の進出の状況を捉える。 ○ 奄美の黒砂糖づくり（絵）を基に、薩摩藩が黒砂糖の専売を強化するなど、財政改革を進めたことを捉える。 |
| | <p>「知識・技能」を活用した「思考・判断」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の西南端に位置する薩摩藩は、南方からやってくる外国船と最初に接し、今後の日本の在り方について、特に危機感を高めていたのではないか。 ○ 富国強兵、殖産興業による強い国づくりを目指していた島津斉彬が藩主になったことや、藩の財政改革が行われたことで、全国に先駆けて、産業の近代化を進めることができたのではないか。 ○ 集成館事業は、在来技術の活用による燃料や動力源の確保など、職人の知恵と努力によって推進された。 |
| 課題解決 | <p>予想される生徒の「表現」例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の西南端に位置し、早くから欧米列強の外圧にさらされた薩摩藩は、日本の独立を守るため、全国に先駆けて西洋式の製鉄、大砲製造、造船、紡績などに取り組み、産業の近代化を図った。 |
| 新たな問い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時を振り返り、新たな問いを整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ （例）佐賀藩など、他藩ではどのような近代化の動きがあったのだろうか。 ・ （例）斉彬没後に規模を縮小した集成館事業が再興されたのはなぜだろうか。 ・ （例）「明治日本の産業革命遺産」を構成する他県の遺産には、どのようなものがあるだろうか。 |

（作成協力: 県総合教育センター）